

## 「市民参加懇談会in札幌」で頂いたご意見の整理

意見分類	ご意見等	対応
広聴・広報	<p>原子力に関して、自らが判断出来るよう分かりやすい情報が必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力のメリット・デメリット(環境、電気料金への影響、潜在的な危険性など)</li> <li>・専門用語を使わない分かりやすい情報</li> <li>・良い情報、悪い情報も隠さないことが重要</li> <li>・核燃料サイクル、世界における原子力開発の動向、原子力の安全性、必要性、利便性についての情報</li> </ul> <p>説明会、勉強会等を地方都市でもっと開催してほしい。 「原子力政策」と「国民・市民」の間の距離を縮めてほしい。</p>	<p>原子力政策大綱では、2 - 5 - 2「広聴・広報の充実」に原子力の研究、開発及び利用に関する国民や地域社会との相互理解を図る活動の必要性について示しております。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます。</p>
原子力発電	<p>資源小国、環境問題、安定・安価な電力供給等を考えると原子力の利用は妥当と考える。</p> <p>現状では原子力を選択するのは妥当だと考えるが、原油価格等の高騰などの情勢変化や再生可能エネルギーの開発状況により数値目標を見直すことが必要ではないか。</p> <p>原子力の比率は、リスク回避できる範囲が妥当であり、原子力がその役割を果たせない場合のバックアップも考えるべきでないか。</p>	<p>原子力政策大綱では、3 - 1 - 2「原子力発電」に、エネルギー供給のベストミックスの追求、原子力発電がエネルギー安定供給及び地球温暖化対策への貢献の期待について示しております。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます。</p>
教育	<p>原子力に対する見直しが世界中で進められる一方で、市民レベルで考えると、まだまだ理解が不足しており、イメージもよくなっていない。初等教育からしっかりと「エネルギー安定供給とは何か」を教える必要があるのではないか。</p> <p>今後のエネルギーの重要性を考えると、一般市民も自らの学習に基づき判断していくべきであり、判断ができるよう小学校からエネルギーについて教育すべきではないか。</p> <p>放射線に関する「教育」がなされていない。原子力を含め「教育」にどう組み込むかが大きな課題でないか。</p>	<p>原子力政策大綱では、2 - 5 - 3「学習機会の整備・充実」に学習機会の多様化、充実の取り組むべきこと示しております。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、ご意見を関係機関に伝えます。</p>
放射線利用	<p>放射線の使用法、安全性を明示すべき。</p> <p>暮らしに放射線は広く活用されているのに、一般に認知されていないのではないか。放射線の利用状況をもっとPRすべき。</p> <p>放射能等の害がなくなるまで何百年も要すると聞いており、安全管理は大丈夫か。</p> <p>がん治療、食品への照射、など色々な利用がなされているが、人体や環境に何らかの影響がないのか。</p> <p>人体に影響を及ぼさない範囲で有効活用すべきでないか。</p>	<p>原子力政策大綱では、3 - 2「放射線利用」において、放射線利用に関する基本的考え方を示しております。また、原子力委員会は、これを踏まえ、食品専門部会を設置し、食品照射に関する現状等について調査審議を終え報告を受けたところで、これらの頂いたご意見について関係機関に伝えます。</p>
原子力委員会への意見	<p>規制行政の行う安全規制活動の更なる監視、監査や、新たな知見に基づく諸指針等の見直しと、これらの国民への解りやすい広報活動をお願いしたい。</p> <p>原子力推進のため、より積極的な活動を期待。一般市民には原子力委員会がどんな役割を担っているのか分かっている人が少ないように思うのもっとPRすべきではないか。</p>	<p>原子力政策大綱では、第6章「原子力の研究、開発及び利用に関する活動の評価の充実」において示しており、原子力委員会自ら定めた政策の妥当性を定期的に評価し、その結果を国民に説明していくとしています。</p>